

インドネシア・西部バリ国立公園周辺村における、地域に根ざした環境教育と若者ファシリテーター育成を通じた『子どもたちが生きいきと活動するカンムリシロムク保護村』づくり

活動地域  インドネシア

ひろげる助成

3年目

実践

環境教育の実施校

7校

環境保全ファイターズ

12人

今年度計画の達成度

85%

全体計画の達成度

90%

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス禍により、学校が一時期休校となり、集まることも制限された。またジャカルタから活動地である西バリへ出向くことも難しい時期があった。

■工夫した点

環境教育シラパスの作成チームは、オンラインでの話し合いやメンバーの自宅での少人数の打合せを活用しながら、役割分担をして作業を進めた。

課題

インドネシア・バリ西部において、カンムリシロムクの野生復帰をデコにエコツーリズムを発展させるためには、多くの村人による生息地復元や野生復帰支援活動が必要である。

目標

西部バリ国立公園周辺村において、子どもや若者が積極的に参加するカンムリシロムク野生復帰活動が進み、他地域からの視察や村落エコツーリズムの対象となる。

活動内容と成果

環境教育のシラパスが作られて、三つの村の七つの小学校の教員30人により470人の児童に対して教室及び屋外で環境教育が実施された。参加した子どもたちはその後、ちびっ子ファシリテーターとなり、カンムリシロムクの観察をしながら集落をガイドする活動、巣箱作りとその設置、カンムリシロムクのモニタリング等を行っている。さらに保護者を中心とした大人たちが、環境保全ファイターズとして、有機ゴミの堆肥化活動と定期的な清掃活動、カンムリシロムクの餌となる樹種の苗木作りや、その販売及び植樹活動を進めている。



「ちびっ子スマートギズ」のメンバーたち

全助成期間の活動を振り返って

新型コロナウイルス禍により行動が制限された中で、環境ファシリテーター、ちびっ子ファシリテーター、環境保全ファイターズ、村人自身がイニシアティブを持って、環境再生・保全活動を進めることができた。環境教育シラパスも、小学校教員や村人有志の積極的な参加で作り上げられた。野生のカンムリシロムクが村で目撃されるようになって、自然を守ることの大切さを村人たちが実感しており、こうした活動が可能となったのだろう。



堆肥づくりをする環境保全ファイターズ

Nayu Cengklik RT02 RW020 No.1
Nusukan Banjarsari Surakarta, Jateng, Indonesia



今後の展望

環境教育シラパスはジュンブナ県行政の支援を通じ、より多くの小学校で継続的に取り組む。ちびっ子ファシリテーターと環境保全ファイターズの数を増やし、活動を活発化させる。これにより、カンムリシロムクの生息環境が整備され、村での目撃も増える。環境保全ファイターズによる環境保全・再生の諸活動や、ちびっ子ファシリテーターによるカンムリシロムクの観察と村のガイドを「体験型観光」のパッケージとして開発していく。